

I | 映画館での上映

3

諸外国との比較[2021]

※各国のデータについては、以下を参照した。

アメリカ(及びカナダ)

モーション・ピクチャー・アソシエーション

Motion Picture Association (MPA)

“Theatrical Home Entertainment Market Environment (THEME) Report”

<https://www.motionpictures.org/research-policy/>

フランス

フランス国立映画・映像センター

Centre National du Cinema et de l'Image Animee (CNC)

“Bilan du CNC”

<https://www.cnc.fr/professionnels/etudes-et-rapports/bilans>

イギリス

英国映画協会

British Film Institute (BFI)

“Statistical Yearbook”

<https://www.bfi.org.uk/industry-data-insights/statistical-yearbookk>

ドイツ

ドイツ映画振興協会

Filmförderungsanstalt (FFA)

“FFA Info”

<http://www.ffa.de/studien-und-publikationen.html>

オーストラリア

スクリーン・オーストラリア

Screen Australia “Fact Finders”

<https://www.screenaustralia.gov.au/fact-finders/>

韓国

韓国映画振興委員会 영화진흥위원회 (KOFIC)

“Korean Film Industry”

<http://www.koreanfilm.or.kr/eng/publications/books.jsp>

『映画年鑑』

「統計編 世界主要各国映画諸統計」(キネマ旬報社刊)

2023年1月末現在、まだ、諸外国の2022年のデータはインターネット上に公開されていないため、以下では、2021年の日本と諸外国(アメリカ・カナダ、フランス、イギリス、ドイツ、韓国、オーストラリア)のデータを比較している。2020~2021年は、いずれの国もコロナ禍の中にあった。

観客数

2020-21年、日本の映画産業はコロナ禍で大きな打撃を受けたが、他の国々がコロナによって受けた影響は日本をはるかに上回るものであった。2021年、日本の観客数は2019年比で59%まで回復したが、他の国々は依然として50%以下に留まっている。

2021年の観客数をコロナ前の2019年と比較すると、アメリカ・カナダは38% (62%減)、ドイツ35%、オランダ37%、フランス45%、イギリス42%、オーストラリア47%で、最も回復が遅れているのが韓国で27%にとどまっている。アメリ

カ・ニューヨークの映画館は2020年3月から2021年春まで、ほぼ1年間休館し、フランスでは、ロックダウンに伴い全映画館が閉館した。2020年3月から2021年5月半ばまで断続的に閉館・再開が繰り返された。イギリスやドイツ等のヨーロッパの国々も同様の状況であり、2021年はまだコロナ禍の只中にあり、回復基調には至っていなかった。韓国では全館休館には至らなかったものの、徹底的なコロナ感染防止対策がとられる状況が長く続き、観客の回復に時間がかかっているものと考えられる。観客数を人口で割った国民1人当たりの年間鑑賞本数も韓国が1.2本(←4.4)、アメリカ・カナダ1.3本(←3.4)、フランス1.5本(←3.3)、オーストラリア1.6本(←3.3)、イギリスは1.1本(←2.6)と、コロナ前に比べるとかなり低い状態が続いている。

→ [fig.17, 18](#)

映画館数・スクリーン数

いずれの国も、シネマ・コンプレックスの増加を背景に2019年まではスクリーン数は増加を続けていたが、2020年は減少に転じ(フランスと日本のみ微増)、コロナ禍の影響が懸念されたが、2021年、アメリカとイギリス以外の国ではスクリーン数は微増している。すべての国において、様々な形で映画館を守るための支援策が講じられた。日本では、ミニシアター・エイド基金やSAVE the CINEMAといった、映画館を応援し、映画館や上映者に対する公的な支援を求める動きが生まれたように、諸外国においても、映画人や映画ファンが映画館にエールを送る活動が行われ、映画館自身も存続のための様々な試みを行ってきたことによって、コロナ禍による閉館は最小限に留まっている。

2021年のスクリーン数は、アメリカが4万578スクリーンと他の国に比べて圧倒的に多く、次いでフランスが6193、ドイツ4931、イギリス4620スクリーンが続く。

人口をスクリーン数で割った「1スクリーン当たりの人口」は、その数値が低いほどスクリーンが多い、身近にスクリーンが存在しているとみることが出来る。この数値をみると、日本は34,088人に1スクリーンと、他の国に比べてスクリーンが極端に少ないことがわかる。アメリカは9121人に1スクリーン、フランスは10,597人に1スクリーンで、日本以外の7ヶ国はいずれも1スクリーン当たりの人口は1万人台におさまっており、日本のスクリーン数は、アメリカの4分の1、フランスの3分の1、韓国やドイツの2分の1程度しかない状態である。

→ [fig.19, 20, 21](#)

fig.17

諸外国との比較
[観客数]
(2012-2021)

	アメリカ・カナダ*	フランス	ドイツ	オランダ	イギリス	韓国	オーストラリア	日本
人口(2021)	370,126	65,627	83,222	17,475	67,886	51,745	25,418	125,682
2012	1,360,000	203,600	135,100	30,560	172,500	194,890	85,900	155,159
2013	1,340,000	193,700	129,700	30,818	165,500	213,350	82,000	155,888
2014	1,270,000	209,100	121,700	30,834	157,500	215,060	78,600	161,116
2015	1,320,000	205,400	139,200	32,970	171,900	217,290	90,300	166,630
2016	1,320,000	213,200	121,100	34,193	168,300	217,020	91,300	180,189
2017	1,240,000	209,400	122,300	36,000	170,600	219,870	85,000	174,483
2018	1,300,000	201,200	105,400	35,700	177,000	216,390	89,800	169,210
2019	1,240,000	213,200	118,600	38,000	176,100	226,680	84,700	194,910
2020	240,000	65,300	38,100	16,800	44,000	59,520	28,200	106,137
2021	470,000	95,500	42,100	14,200	74,000	60,528	39,700	114,818
2012→2021の変化	35%	47%	31%	46%	43%	31%	46%	74%
2019→2021の変化	38%	45%	35%	37%	42%	27%	47%	59%

単位:千人

fig.18

諸外国との比較
[年間鑑賞本数]
(2012-2021)

	アメリカ・カナダ*	フランス	ドイツ	オランダ	イギリス	韓国	オーストラリア	日本
2012	3.9	3.2	1.7	1.8	2.7	3.9	3.8	1.2
2013	3.8	3.0	1.6	1.8	2.6	4.2	3.5	1.2
2014	3.6	3.3	1.5	1.8	2.4	4.2	3.4	1.3
2015	3.7	3.2	1.7	2.0	2.6	4.3	3.8	1.3
2016	3.7	3.3	1.5	2.0	2.6	4.2	3.7	1.4
2017	3.4	3.2	1.5	2.1	2.6	4.3	3.4	1.4
2018	3.6	3.1	1.3	2.1	2.7	4.2	3.6	1.3
2019	3.4	3.3	1.4	2.2	2.6	4.4	3.3	1.5
2020	0.6	1.0	0.5	1.0	0.7	1.1	1.1	0.8
2021	1.3	1.5	0.5	0.8	1.1	1.2	1.6	0.9

*アメリカ映画協会 (Motion Picture Association of America, MPAA) は、観客数について、アメリカとカナダをあわせた数値を公表している。

fig.19

諸外国との比較
[スクリーン数]
(2012-2021)

	アメリカ	フランス	ドイツ	オランダ	イギリス*	韓国	オーストラリア	日本
2012	39,662	5,508	4,617	808	3,858	2,081	1,997	3,290
2013	40,024	5,588	4,610	828	3,897	2,184	2,057	3,318
2014	39,956	5,647	4,637	859	3,947	2,281	2,041	3,364
2015	40,006	5,741	4,692	888	4,115	2,424	2,080	3,437
2016	40,174	5,842	4,739	944	4,195	2,575	2,121	3,476
2017	40,393	5,913	4,803	956	4,309	2,766	2,210	3,530
2018	40,837	5,983	4,849	971	4,399	2,937	2,278	3,591
2019	41,172	6,114	4,961	985	4,564	3,079	2,310	3,627
2020	40,998	6,127	4,926	996	4,591	3,015	2,229	3,669
2021	40,578	6,193	4,931	1,027	4,620	3,254	2,290	3,687
2012→2021の変化	102.3%	112.4%	106.8%	127.1%	119.8%	156.4%	114.7%	112.1%
2020→2021の変化	98.6%	101.3%	99.4%	104.3%	101.2%	105.7%	99.1%	101.7%

*BFIは、2020年以降、スクリーン数及び映画館数のデータの公表をしていない。そのため、イギリスのスクリーン数は『映画年鑑(2013~2023)』『統計編 世界主要各国映画諸統計』(時事映画通信社/キネマ旬報社刊)のデータを参照している。

fig.20

諸外国との比較
[映画館数]
(2017-2021)

	アメリカ	フランス	ドイツ	オランダ	韓国	オーストラリア	日本
2017	-	2,046	1,672	274	452	513	587
2018	-	2,040	1,672	275	483	520	584
2019	-	2,045	1,734	277	513	524	593
2020	-	2,041	1,728	279	474	472	595
2021	-	2,028	1,723	282	542	501	596
2017→2021の変化	-	99.1%	103.1%	102.9%	119.9%	97.7%	101.5%
2019→2021の変化	-	99.2%	99.4%	101.8%	105.7%	95.6%	100.5%

fig.21

諸外国との比較
[1スクリーン当たりの人口]
(2021)

	アメリカ	フランス	ドイツ	オランダ	イギリス	韓国	オーストラリア	日本
人口(千人)	370,126	65,627	83,222	17,475	67,886	51,745	25,418	125,682
スクリーン数	40,578	6,193	4,931	1,027	4,620	3,254	2,290	3,687
人口/スクリーン	9,121	10,597	16,877	17,016	14,694	15,902	11,100	34,088

興行収入/入場料金

興行収入で注目すべきは、2020年にアメリカ・カナダが第1位の座を中国に明け渡したという点である。2021年もアメリカ・カナダは観客の回復が遅れ、中国に大きく水をあけられた状態となっている。日本は、中国、アメリカ・カナダについて第3位の位置を保持し続けている。もう1点、注目すべきなのは、いずれの国においても平均入場料金が2020年に比べてかなり上がっているという点である。物価の上昇が入場料金にも反映していると見ることができるが、コロナ禍で、それまで観客層の中心であった高齢者層の観客が減少し、シニア割引の割合が減っていることもその一因となっているかもしれ

ない。日本の入場料金は平均1410円と1400円の大台に乗った。これは、他国に比べるとかなり高く、これが興行収入の大きさの背景にある。その一方で、入場料金の高さが、鑑賞回数が増えない一因にもなっているのではないかと思われる。

→ fig.22 (入場料金・興行収入(2021))

1スクリーン当たりの観客数・興行収入

1年間の観客数をスクリーン数で割った1スクリーン当たりの観客数をみると、いずれの国もコロナ前の2019年から大きく数値を下げ、50%以下となっている。日本は、2020年には28,928人となり、2019年53,739人の54%ま

で減少したが、2021年には、31,141人と67%まで回復している。

1スクリーン当たりの1年間の興行収入をみると、日本が約4439万円(2019年の61%)とトップの数値を示す。他の国に比較してスクリーン数が少なく、入場料金が高いことが1スクリーン当たりの観客数や興行収入の高さの背景にある。2021年、欧米の映画館の1スクリーン当たりの興収は、アメリカ・カナダが1113万円、フランスは1289万円、ドイツは1048万円と日本の3分の1程度であり、いずれの国も2019年比では50%に達していない。映画館にとっては厳しい経営が続いている。

fig.22
諸外国との比較

[1スクリーン当たりの観客数]
(2012-2021)

	アメリカ	フランス	ドイツ	オランダ	イギリス	韓国	オーストラリア	日本
2012	-	36,964	29,261	37,822	44,712	93,652	43,015	47,161
2013	-	34,664	28,134	37,220	42,469	97,688	39,864	46,983
2014	-	37,029	26,245	35,895	39,904	94,283	38,511	47,894
2015	-	35,778	29,668	37,128	41,774	89,641	43,413	48,481
2016	-	36,494	25,554	36,221	40,119	84,280	43,046	51,838
2017	-	35,413	25,463	37,657	39,592	79,490	38,462	49,429
2018	-	33,629	21,736	36,766	40,236	73,677	39,421	47,121
2019	-	34,871	23,906	38,579	38,585	73,621	36,667	53,739
2020	-	10,658	7,734	16,867	9,584	19,741	12,651	28,928
2021	-	15,421	8,538	13,827	16,017	18,601	17,336	31,141

fig.23
諸外国との比較

[入場料金・興行収入]

	平均入場料金(円)		興行収入(百万円)		観客数(百万人)		スクリーン数		1スクリーン当たり興行収入(万円)	
	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021
アメリカ・カナダ	968	981	240,182	485,576	248.1	495.1	44,109	43,646	545	1,113
中国	576	671	315,861	783,038	548.0	1,167.0	75,581	82,248	418	952
イギリス	923	1,105	40,621	81,776	44.0	74.0	4,591	4,620	885	1,770
フランス	809	860	51,545	80,794	63.7	93.9	6,127	6,268	841	1,289
インド	101	125	28,106	53,468	277.7	427.0	9,545	9,423	294	567
韓国	750	901	46,142	54,503	61.5	60.5	3,307	3,254	1,395	1,675
ドイツ	1,016	1,119	38,699	47,103	38.1	42.1	4,485	4,494	863	1,048
オーストラリア	1,046	1,156	29,484	48,545	28.2	42.0	2,241	2,251	1,316	2,157
オランダ	1,098	1,263	18,453	18,057	16.8	14.3	996	997	1,853	1,811
メキシコ	287	347	17,801	39,468	62.0	113.6	7,595	7,555	234	522
ブラジル	334	344	12,974	17,449	38.8	50.7	3,506	3,467	370	503
スウェーデン	1,375	1,639	7,838	9,995	5.7	6.1	851	844	921	1,184
日本	1,350	1,410	143,285	161,893	106.1	114.8	3,616	3,647	3,963	4,439

観客数及びスクリーン数：『世界主要各国映画諸統計』（映画年鑑2023）参照。fig.17とは参照元が異なるため数値に違いが生じている。

興行収入：『世界主要各国映画諸統計』において、興行収入は米ドルで記載されている。

2020年および2021年の日本の興行収入から米ドルとの為替レートを計算、そのレートで各国の興行収入(円)を計算している。

平均入場料金：興行収入を観客数で割った数値。

1スクリーン当たり興行収入：興行収入をスクリーン数で割った数値。

シネマ・コンプレックスの割合

フランス、韓国ともコロナ禍で観客数が激減しているにもかかわらず、映画館数やスクリーン数に大きな変化はみられなかった。2020-2021年にかけては、むしろ少しずつ増えている。

シネコンの割合が高いのは韓国で、全3254スクリーン中3060スクリーン、94.0%をシネコンが占めている。韓国では、スクリーン数がこの1年間で200スクリーン以上増加している。日本のシネコンのシェアも88.1%と高い数値を示している。フランスは、シネコンの比率は44.4%にとどまっており、映画館数では、シネコン240館に対し、シネコン以外の映画館が1788館と、シネコンを大きく上回っている。(フランスはシネコンの定義を「8スクリーン以上」としており、他国が「5~7スクリーン以上」としていることと異なる) そのうち、1305館は多様な映画を上映する「アー・エ・エセイ映画館」(アートハウス、日本のミニシアターに近い)に認定されており、国や自治体から助成金を得ている。また、フランスの映画館数は2028館と日本の596館の3倍以上となっている。フランスでは人口1~2万人の中小の市町村の73%に映画館があり、身近な場所で多様な映画を見ることができる環境が保持されている。

→ fig.24, 25

fig.24

諸外国との比較[シネマコンプレックスの割合 スクリーン数](2017-2021)

		2017	2018	2019	2020	2021
フランス	スクリーン数	5,913	5,983	6,114	6,127	6,193
	うちシネコン	2,505	2,582	2,666	2,677	2,752
	割合	42.4%	43.2%	43.6%	43.7%	44.4%
韓国	スクリーン数	2,766	2,937	3,079	3,015	3,254
	うちシネコン	2,602	2,756	2,885	2,908	3,060
	割合	94.1%	93.8%	93.7%	96.5%	94.0%
日本	スクリーン数	3,531	3,570	3,627	3,672	3,688
	うちシネコン	3,109	3,154	3,197	3,238	3,249
	割合	88.0%	88.3%	88.1%	88.2%	88.1%

fig.25

諸外国との比較[シネマコンプレックスの割合 映画館数](2020, 2021)

	2020			2021		
	シネコン	シネコン以外	合計	シネコン	シネコン以外	合計
フランス	232	1,813	2,045	240	1,788	2,028
韓国	407	106	513	440	102	542
日本	356	237	593	360	236	596

シネマコンプレックスの定義…

フランス 8スクリーン以上の劇場

日本 5スクリーン以上の映画上映専門施設

韓国 CJ CGV、ロッテシネマ、メガボックス、シネQのチェーンによる映画館に加え、7スクリーン以上を持つ映画館

公開本数

2020年、フランス、ドイツ、オーストラリアが公開本数を前年の半分程度に減らしたが、2021年には60~70%まで回復している。韓国は2020年1693本、2021年も1637本を公開、コロナ前とほぼ変わらない作品数を公開し続けているが、1本当たりの観客数は、2019年の30%以下にとどまっている。

日本では、2019年、自国映画/外国映画の割合は、公開本数、興行収入とも5.4:4.6と、他国に比べて非常にバランスの取れた状態となっていた。ハリウッド映画への依存度が他国に比べて低かったため、2020年のハリウッド映画公開延期の影響も比較的強く抑えられたといえる。しかし、興行収入のバランスは大きく崩れ、2020年は日本映画76.3%、外国映画23.7%となり、2021年には79.3%、20.7%とその差が広がっている。

→ fig.26

映画館に対する恒常的な支援制度

日本以外のいずれの国にも、映画産業と映画文化を統括し振興する組織(フランスのCNC、イギリスのBFI、ドイツのFFA、韓国のKOFICなど)があり、製作・配給・興行(上映)・教育・保存、放映や配信にいたるまで、映画に関わるあらゆることに関与している。上映活動についても、シネコンのような商業的な大規模映画館での上映から、多様な映画を上映するミニシアターやシネマテーク、自主上映まで、様々なレベル、種類の上映活動を支援する制度が確立している。

公的な支援、振興策には、単に金銭的な支援という以上の意味がある。公的な支援を受ける映画館には、公共的な文化施設として、地域コミュニティや文化団体との連携を重視したプログラム作りや若年層の観客開拓、映画教育プログラムなど多様な活動を行うこと、そのような活動を行うスタッフを育成することも求めら

れる。そのことにより、地域における文化的な存在感、持続可能性も高くなる。コロナ禍のような緊急事態に際しても、諸外国において、映画館や上映者を守るための対策を行うのはCNCやBFI、KOFICといった映画を統括する組織である。

ほとんど公的な支援を受けずに、130館をこえるミニシアターが、大都市のみならず中小都市にも存在し、運営されている日本の状況は、諸外国から見ると「miracle(奇跡)」なのである。しかし、奇跡は永遠に続くものではない。この20年間で映画館は約300館減っており、映画館のない市町村、映画館空白地域が広がり続けている。関係者の献身と犠牲によって成立してきた小規模な映画館の運営は限界に近づいていると言わざるを得ない。映画振興策の見直し、映画館支援、上映者の実態に対応した助成プログラムの実現が待望されている。

fig.26 諸外国との比較[公開本数](2012-2021)

		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021		
												自国映画	外国映画
フランス	公開本数	614	654	663	652	716	693	683	746	365	455	247	208
	観客数(千人)	203,600	193,700	209,100	205,400	213,200	209,400	201,200	213,200	65,300	95,500	41%	59%
	1本あたり入場者数	331,596	296,177	315,385	315,031	297,765	302,165	294,583	285,791	178,904	209,890		
ドイツ	公開本数	551	563	570	596	610	587	576	606	339	429	191	238
	観客数(千人)	135,100	129,700	121,700	139,200	121,100	122,300	105,400	118,600	38,100	42,100	22%	78%
	1本あたり入場者数	245,191	230,373	213,509	233,557	198,525	208,348	182,986	195,710	112,389	98,135		
オランダ	公開本数	406	353	362	371	407	432	480	492	340	298	51	247
	観客数(千人)	4,831	6,267	6,447	6,210	4,194	4,300	3,900	4,500	3,500	3,300	22%	78%
	1本あたり入場者数	11,899	17,754	17,809	16,739	10,305	9,954	8,125	9,146	10,294	11,074		
イギリス	公開本数	647	698	712	759	821	760	787	754	381	498	131	367
	観客数(千人)	172,500	165,500	157,500	171,900	168,300	170,600	177,000	176,100	44,000	74,000	41%*	59%*
	1本あたり入場者数	266,615	237,106	221,208	226,482	204,994	224,474	224,905	233,554	115,486	148,594		
韓国	公開本数	631	905	1,095	1,176	1,520	1,621	1,646	1,740	1,693	1,637	653	984
	観客数(千人)	194,890	213,350	215,060	217,290	217,020	219,870	216,390	226,680	59,520	60,530	30%	70%
	1本あたり入場者数	308,859	235,746	196,402	184,770	142,776	135,638	131,464	130,276	35,157	36,976		
オーストラリア	公開本数	424	421	508	540	611	697	758	754	401	457	52	405
	観客数(千人)	85,900	82,000	78,600	90,300	91,300	85,000	89,800	84,700	28,200	39,700	12%*	88%*
	1本あたり入場者数	202,594	194,774	154,724	167,222	149,427	121,951	118,470	112,334	70,324	86,871		
日本	公開本数	983	1,117	1,184	1,136	1,149	1,187	1,192	1,278	1,017	959	490	469
	観客数(千人)	155,159	155,888	161,116	166,630	180,189	174,483	169,210	194,910	106,137	114,818	79%*	21%*
	1本あたり入場者数	157,842	139,560	136,078	146,681	156,822	146,995	141,955	152,512	104,363	119,727		

*観客数のシェアではなく興行収入のシェア

